



36th

日本サイコネフロジー学会学術集会・総会

LIFE を支える

会期：2025年7月26日（土）27日（日）会場：大阪国際会議場（グランキューブ大阪）

## ワークショップのご案内

### WS1 ていねいに聴く、ちゃんと理解する — 透析患者とのコミュニケーションにおける困難場面からの学び—

演者 小貫 亜希子（埼玉草加病院） 高野 公輔（明治学院大学）  
ファシリテーター 井上 敦子（東京女子医科大学病院） 大下 智子（戸田中央総合病院）  
小林 清香（埼玉医科大学総合医療センター）  
中村 菜々子（中央大学）他 交渉中

本ワークショップは、透析医療に従事する専門職が日常臨床で患者さん理解をさらに進めるためのコミュニケーション上の課題に焦点を当て、体験を通して学びます。

「透析に行きたくない」「もう終わりにしたい」という患者さんに、どのように応答し、関わればよいか戸惑った経験を持つ人は少なくないでしょう。また、長年関わってきた透析患者さんの内面に改めて向き合おうとする際には、普段と異なるコミュニケーションスキルが求められます。

臨床の中に存在する、「対応に困る場面」を具体的な素材として取り上げ、まず、医療者も自分が無意識に持っている先入観や思い込みに影響されることがあることに気づくこと、様々な「聴き方」を学ぶことから始めましょう。講義に加えてロールプレイを行い、「対応に困る場面」をリアルに体験しながら、現場で活かせる実践的なスキルを学びます。

このワークショップが、患者さんの言葉の背景にある感情や意図に目を向け、よりよく患者さんを理解するための効果的なコミュニケーションの土台作りにつながれば幸いです。

### WS2 透析患者の暴言・セクハラ対応と医療者(ナース)のケア ～自分の権利を守り、Iメッセージで思いや気持ちを伝えるスキル～

ファシリテーター 岡山 ミサ子（オフィスJOC）  
患者対応スキルPSSインストラクター  
藤原 良江（姫野クリニック） 岡田 理江（大田姫野クリニック）  
青木 栄子（いなげ腎クリニック） 井島 順子（志都呂クリニック）  
鈴鹿 ゆかり（横浜第一病院）

#### <目的>

透析医療現場で働く医療者（ナース）は透析患者の暴言・セクハラの対応にどう対応していいかわからず困惑しています。そこで透析患者の暴言・セクハラの患者対応として、よくありそうなケースで演習を通して、患者に巻き込まれない、自分の権利を守るという視点でワークショップを開催します。

#### <方法>

- ② レクチャー、暴力の構造・アサーション・人権侵害されない・アイメッセージのやり方
- ② 暴言・セクハラのケースで透析患者役と医療者（ナース）役のロールプレイの実践する
- ③ 巻き込まれないための境界線を引くワークをしてグループで考える
- ④ 現場での事例からチーム・組織としての対応とケアを考える

#### <まとめ>

医療者（ナース）同士で演習や対話を通して、これまでの経験や考えを共有することで、気づきや発見につながり、一人一人が自分の権利を守りながら患者対応していけるようなワークショップにしていきます。

# WS3 『生活目標で患者の“Active Life”を支える』 ～臨床で活用するために～

座長 今西 伸子（柏友クリニック）  
講師 杉本 和仁（つむぐ訪問看護ステーション） 薄井 園（昭和医科大学病院）  
深山 美香（熊本泌尿器科病院）

近年、医療の現場では「病気を診る」だけでなく、「人を支える」視点がより一層求められている。とくに慢性疾患を抱える患者にとって、自分らしい生活や生きがいを見据えた支援は、治療意欲の向上や療養生活の質の向上に直結すると考える。慢性腎疾患などの身体疾患をもつ患者に対して、心理的、社会的、そしてスピリチュアルな側面を含む全人的理解を基盤とした支援を重視するサイコネフロロジーの実践において、患者が「どのように生きていきたいか」という生活目標の把握と尊重は、治療のアドヒアランスやQOLの向上、自己効力感の促進といった心理社会的支援の核心に位置づけられる。生活目標とは、患者が人生の中で大切にしたい価値や、今後実現したいと願う行動・活動の方向性であり、病気を超えて「自分らしく生きる」ための指針となる。これは、サイコネフロロジーが重視する「患者の語り」や「意味づけのプロセス」と深く関わっている。医療者が患者の生活目標を理解し、その目標に沿った支援を行うことは、単に身体的管理にとどまらず、患者の“主体性の回復”や“生きる力”を引き出すことにつながる。

本ワークショップでは、患者の「生活目標」を臨床に活かすことをテーマに、生活目標の概念とその意義について概論を提示し、実際の看護実践における事例を紹介する。そのうえで、患者の語りを引き出すコミュニケーションのポイントについて講義形式で学ぶ構成とする。後半にはグループワークを通じて「生活目標を明らかにするコミュニケーション」や「多職種連携にどうつなげるか」などの課題に対して実践的な議論を深めて検討を行う。「治療」と「生活」を繋ぐ生活目標への理解が、患者の「こころ」と「からだ」を橋渡しするサイコネフロロジーへの看護を深めることを期待したい。

## WS4 ACP導入を学ぶ

【登壇者】：前田 国見（石神井公園じんクリニック） 会田 薫子（東京大学）  
大賀 由花（富山県立大学） 北村 温美（大阪大学腎臓内科）  
木下 千春（京都民医連中央病院腎臓内科） 長原 洋子（石神井公園じんクリニック）

### 【ワークショップの主旨】

透析医療の現場にACPを導入する必要性と重要性については十分理解されているが、実際に導入し運用している施設はまだ、多くないと思われる。昨年の本学会参加者からは「ACPを導入したいけれど、どこから始めたらよいかかわからない」という意見が多くあり、導入までのみちのりを学ぶ機会を提供することは、ACP普及に大きな役割を果たすものと思われる。本ワークショップではACP導入についてグループワークを通じて経験し、参加者が自施設でのACP導入の手助けとなるものにした。

- 【構成】
1. ワークショップ開催にあたり趣旨説明
  2. 講演
  3. グループワーク（各グループには以下のテーマを分担して討論）
    - (ア) どのように自施設でACPを導入していくか？
    - (イ) ACP導入実施に障害となる問題点は何か？
    - (ウ) どんな形式のACPを導入していきたいか？
    - (エ) ACP導入後のフィードバックをどうするか？
  4. 各グループよりテーマ(ア)から(エ)について3分程度で発表  
討論・登壇者からコメント
  5. クロージング

ご注意：

この案内は2025年5月7日時点の情報です。諸般の事情にて、登壇予定の方・内容など一部変更される場合もあるので、あらかじめご了承ください。